

海外安全対策情報（2015年1月～3月）

1 社会・治安情勢

現在の治安情勢は概ね落ち着いており、治安の急激な悪化等が懸念されるような状況ではない。また、一般犯罪も少なく、全体としてみれば治安の良い国と考えられる。

ただ、一部の過激化した若者達による暴力的活動は継続しており、一般人が巻き込まれることは少ないにしても、治安部隊との衝突も散発していることから、引き続きこの種の事案に対する警戒は必要である。

バーレーンでは、本年2月、2011年に発生した騒擾事案より4周年を迎えた。一部の過激化した若者達は商業活動のボイコットを呼びかけ、シーア派地区内の商店に休業することを強要したほか、主に2月12日（木）より14日（土）までの間、タイヤや車両を燃やしての道路封鎖、火炎瓶の投擲等の暴力的活動を行った。ただし、同活動が国内商業活動や交通に及ぼした影響は極めて限定的であり、同時期の治安情勢は、2012年以降、上向いていると言える。

他方、昨年12月28日に各種法令違反の容疑で勾留されたアリ・サルマン・ウィファーク代表の裁判が継続しているほか、反政府グループ幹部が、3月26日に開始されたサウジアラビア軍「連合」にバーレーンが参加していることを批判したことで、扇動等の罪で勾留された。これにより、反政府グループによるデモ活動が活発化する可能性もあり得ることから、留意する必要がある。

報道では、ISILへのバーレーン人参加者とされる Turki Al Binali は最近、リビアにおいて ISIL 思想を広めるために説教師として滞在しているとされている。

内務省は、1月7日、2014年中の交通死亡事故死者数を61名（前年比-25名）と発表した。また、2月8日より交通違反の罰則が強化される改正交通法が施行され、シートベルト着用率が向上したとされる。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 基本的に一般犯罪は少なく、在留邦人が被害に遭うことは非常にまれであるが、殺人、強盗、強姦といった凶悪犯罪の発生は確認されていることから、最小限の防衛行動に心掛ける必要がある。

(2) その他の主な発生事件は以下のとおり。

ア 1月2日、内務省は、バーレーン及びクウェート両国警察の合同捜査により、アジアの国からバーレーン経由でクウェートへマリファナ約500gの密輸を図った男性容疑者を逮捕したことを発表した。

イ 1月8日、内務省は、覚醒剤807.2gの密輸を図ったとして、バー

レーン空港でアジア人女性を逮捕したことを発表した。

- ウ 1月11日、内務省は偽造紙幣詐欺団6名を逮捕したことを発表した。
- エ 1月14日、ハマラ地区のガレージにおいて、車両12台が焼損された。
- オ 1月21日、税関空港支局は、バーレーン空港において旅行客の荷物から違法薬物9万9,457個、16.828kgを押収した。
- カ 3月12日、警察がマナーマ市ジュフェール地区アル・ファタ・コーニシュのマリーナ・クラブ付近において、治安関連事件の容疑者3名を逮捕しようとしたところ、うち1名が逃走した。逃走犯は、一時拳銃を発砲するなどして逃走を図ったが、エクシビション・アベニュー付近で逮捕された。負傷者なし。

(4) 邦人被害事案

なし

(5) 邦人以外の被害事案

なし

3 テロ・爆弾事件発生状況

- (1) 1月2日、ピラード・アル・カディーム地区において、警察官1名が改造消火器銃で撃たれ、負傷した。
- (2) 1月31日、ムクシャ地区のジャワド給油所内のトイレにおいて手製爆弾が爆発し、警察官2名が負傷した。付近では、警察官が常時警戒に当たっており、犯人は警察官が同トイレを日常的に利用していることを知った上で犯行に及んだとみられている。アシュタル旅団が犯行を認めている。
- (3) 2月14日午前10時30分頃、ブダイヤ・ハイウェイのカントリーモール付近（カラーナ地区）において手製爆弾1発が発見され、警察により爆破処理された。
- (4) 2月14日、セハラ地区において治安部隊との衝突が発生した際、シーア派の宗教施設に隠されていた火炎瓶に引火して火災が発生したことにより、同宗教施設に火炎瓶等の武器類が隠されていたことが発覚した。
- (5) 2月17日、内務省はアーリ地区に所在する建設現場において、手製爆弾及び手製銃の部品等を押収したことを発表した。
- (6) 2月23日、ムクシャ地区に所在するモスクのトイレに隠されていた手製爆弾1発が爆発し、同モスクが破損した（死傷者なし）。これに先立ち、内務省はテロ容疑者1名を逮捕し、同人の供述により、爆発物処理班を同所へ派遣していた。
- (7) 3月15日、イラク発バーレーン行のバスに乗っていた男性が、コーズウェイ通過時の入国手続の際、スーツケースの中に約140kgの爆発物材料を

隠し持っていたとして逮捕された。その後、同バスの運転手を含め共犯4名が逮捕された。残りの共犯1名は、イラクに滞在しているとされる。本件容疑者6名は、テログループを組織し、爆発物をシトラ島で使用しようとしていたとされる。

(8) 3月19日、カラーナ地区において手製爆弾1発が爆発し、警察官2名が負傷した。

(9) 3月22日、シトラ島において警察官が銃撃を受け、うち1名が負傷した。

同月25日、容疑者1名が逮捕され、同現場において武器類が押収された。

(10) 3月25日、警察はデイル地区において爆発物を押収した。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人の被害は報告されていない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

2011年の大規模騒擾事案を念頭に、社会・治安情勢が急激に悪化した場合の対応について、事前にしっかりとした体制を構築しておく必要がある。特に、大使館との連絡手段（緊急連絡網、デモ情報、無線機、FMラジオ等）、緊急時の国外退避方途について、日頃からの準備と確認が大切である。

以上